



「東葛飾中学受験 について」

●東葛飾中学が開校し二年目。みなさんは東葛飾中学の選抜方法を知っていますか？適性検査を実施するということはわかっていますが、内容まではよく分からないという人も多いのではないのでしょうか。今回は適性検査の内容と学習法について説明します。

●適性検査は、教科横断型となっており、従来の試験のように四教科に分かれているわけではありません。文系の問題のなかにも計算が必要な問題が出題されています。このような適性検査の中で、最も必要な力は、「抽象」と「具体」を使い分ける力です。大人であれば容易に使い分けることができますが、成長段階にある小学六年生にとっては非常に難しいようです。ではここで一つ問題です。「目上の人には、ていねいな言葉づかいをする。」という具体的な行動にあてはまる日常生活に生かせる精神として「礼儀正しくするなど、」この空欄に何が入るかわかりましたか？ここで、「言葉」や「態度」という単語を使って答えた人はまだまだですよ。正解は後ほど……。

●このような問題に対応するためには、もちろん

ん机に向かった学習は必要ですし、学習時間と成績はある程度比例します。ただし、一番重要なことは学習に向かう姿勢です。そこで、学習姿勢として重要な五つのポイントを挙げます。

①整理整頓能力

学校や塾で配布されたプリントがきちんと整理されていますか（もちろんお母さんではなく自分で）。身の回りがきちんと整理できるということは、頭の中もきちんと整理できるということです。また、きちんと整理ができると、正しい生活習慣が身についているという点にもなります。玄関の自分の靴が「ばらばら」なんてことはないですよ？



②家での役割分担

「電話に出る」「戸締りを確認する」など、家での役割分担をすることで責任感が養われます。東葛飾中学では「自己規律力」のある生徒を求めています。自己規律力には責任感が大切です。

③「なぜ？」力

適性検査では、日常生活に関する問題が出題されます。机の前での学習だけではなく、外出をした際にも「なぜ？」と疑問に思うことが大切です。（町中でよく見かける点字ブロックがどのように並んでいるかわかりますか？）

④アナログ力

みなさんは分からないことがあると何を調べていますか？パソコンやタブレット、

スマートフォンなど便利なものに囲まれている私たちは、どうしてもそのようなものに頼ってしまいがちです。しかし、わからなかったことを身につけるためにはひと手間を惜しんではいけません。図書館などで本を使って自分の手で調べることで新しい知識が身につけられるのです。

⑤思考（試行）力

適性検査の問題では、高度な思考力を問う問題が出題されますが、そのような問題はボーッと問題を眺めていても答えは出ません。「ああでもない、こうでもない」と手を動かし続ける試行が必要ですよ。

●東葛飾中学合格のために必要な力を書きましたが、みなさんがこうして塾に通って学習できているのは誰のおかげでしょうか。学習を頑張っているのはもちろんみなさんですが、そのような環境を作ってくれているのは皆さんの周りにいる保護者の方ですよ。勉強に関して口うるさく言われると反発したくなることもあると思います。ただ、時には「礼儀正しくするなど、」うやまつたり、思いやったりする。」



ことも大切です。感謝の気持ちを持つて合格に向けて共に頑張りましょう。また、前に挙げた五つのポイントは、中学生、高校生も身につけるべきものです。日常生活においてこれらのポイントに気をつけましょう。

(上條)

仕組みの理解

●時速250キロ以上で走るスポーツカーでも、スタートからすぐにトップスピードが出せるわけではありません。マニュアル操作の車なら、スタート時はローギアで時速10〜15キロまでひっぱり、その次にセカンドへ入れ30キロを超えるまでひっぱります。そのあとサードへ入れて50キロ以上、それを超えた後は、4速目へ入れると快適にスピードが出せます。



●運転免許を持たない皆さんは、変速機の付いた自転車を連想してみてください。いきなり重いギアでこぎ始めても快適なスピードを出せないことは経験したことがあるのではないのでしょうか。

●クレペリンという心理学者は、人間の「やる気」が脳の側坐核(そくざかく)という部位と関係していることを発見しました。その側坐核を刺激するものの一つが、行動することにより起こる「作業興奮」です。

●やる気が出るのを待って何もしないのではなく、やる気を出すために何かをするしかない、というのがクレペリンの結論でしょうか。やる気は、念じても待っていても出てきてはくれないうことです。

●そこで、先の自動車、自転車の話です。物で

も人でも、動き出すときが一番負荷が大きくエネルギーも必要となります。心理的なハードルも高くなります。いきなりトップスピードが出るわけもなく、それなりのプロセスが必要になります。ですから、その仕組みに合わせて、最初は負荷の小さいことから始めて、作業興奮を呼び起こし、側坐核を刺激する工夫と手順が、動き出せない人には必要になります。

●たとえば、塾での公開模試や会場模擬の答案用紙があれば、そこには×だった問題があるはずです。すでに一度、全力で解いてあるのだから、少しリラクセスして(しかし真剣に)なぜ間違えたのか、解説を丁寧に読んでみましょう。「重要だぞ。」「なるほどな。」と思えたところはラインマーカーなど引いてみましょう。塾のテキストや問題集ではどのように解説してあるのか調べてみましょう。ここまでなら、場所と物さえあれば取り組めるのではないのでしょうか。●また、動き続けてきた人でも、テストや模試の結果で一喜一憂することは当然あります。動きづらくなることもあるでしょう。平地で快適にこいでいたペダルも上り坂では重くなります。上り坂では軽いギアにシフトする必要があります。負荷を軽くし、量を丁寧にこなす勉強でのげる場面もあるものです。英熟語等の暗記に切り替え、作業興奮を呼び起こすのも一つかもしれません。熟語や構文の知識のストックが増えれば、空所補充や整序問題が解きやすくなり、

気がつくとも文法問題をバリバリ解いている自分になっているかもしれません。

●健康情報番組を見て、さつそく次の日に買い込んだサプリメントのことを、三日目あたりから忘れてしまうことが多い私ですが、めずらしく長続きする少数派も中にはあります。効果を実感できたものと、効果の仕組みを理解・納得できたものが、それら少数派になります。「ビタミンCは美容と健康によい。」よりは、「ビタミンCは、抗酸化作用、抗炎症作用など四十種類の作用があり、疲労回復・筋肉の活性化・抗ストレス効果が高い。しかし人間の体内では作れないのでどんどん減ってしまう。ゆえにために補給する必要がある。」と言われたほうが継続できそうな気がしますか？



●さて、やる気は待っていても無い降りてきてはくれません(テスト日・入試日は必ずやってきますが)。仕組みを理解し、それに合わせた自分のプロセスを模索しましょう。自習室という環境を利用するのにもひとつです。先輩たちが書いてくれた体験記を読むのもひとつです。

～受験体験記～

2016版<既刊>



2017版<6月発行予定>



(五日市)

帰省

●ゴールデンウィークに帰省した。鹿児島に住む高齢の母と弟夫婦の元へ。父親の五十回忌を行うためだ。弟の子供たちも帰省を揃えてくれ、近い親類を合わせて十人。菩提寺でお経をあげてもらい会食をして無事終了。九十五歳になった母の安堵した表情を見て皆、安らかな気持ちになったと思う。



●父親の記憶はあまりない。前にも書いたが、私が二歳の頃に別に暮らすようになり、小五のときに亡くなった。私の記憶にあるのは、小三の秋にほんの少し顔を合わせたことと、父を乗せて去り行く夜汽車を見送ったこと、そして父が亡くなった日のことだけ。普通だということの場合の父と子の関係はもっと希薄らしい。しかし、私の中の父は、常に感謝の対象であり、侮蔑の気持ちなど全くない。母も弟も悪口ひとつ言ったことはなく、みんなに好かれていたことがよく分る。よっぽどの好人物だったのだろう。

●腕の良い和菓子職人であった父は店を持つという夢がかなわず、職を求めて、父の兄弟が住む大阪へ移り、そこで亡くなる。私たち家族のことは気がかりでも思うにまかせぬ日々。さぞ無念であったはずだ。それでも、私たちが仲良く五十回忌を行えるような関係性は残してくれた。立派であると思う。

●実は帰省には別の目的もある。母の話聞くことだ。私が帰るたびに、父のこと、母との出

会いのこと、父が鹿児島を離れてからの日々のことなど途切れることなく語るのだ。同居している弟夫婦(この二人は本当によく面倒を見てくれている)には、話せないこともあるらしく、また弟夫婦もこのような話に興味がないようで、必然、私が聞く役目となっている。聞いていると、いつか目頭が熱くなってくるのだが、母の気が済むまでつきあうしかない。今回もノート五頁がびっしり埋まった。私としては分っているつもりであったのに、知らなかったこと、勘違いしていたことが次々に出てくる。



帰省の度に繰り返される時間だが、この頃は少し楽しみにもなっている。何より強く思うようになったのは私自身が母や父の気質とよく似ているということ。多分、母もそれに気付いているのかもしれない。そして、私はいつしか父と母の人生を少しづつ知り、その断片を埋めていくことに喜びを感じている。これもまた不思議な関係かもしれない。

●さて、五十回忌を目標としてきた母の気力が心配だったが、それも解消した。みなに迷惑をかけるかもしれないが、百歳までは生きる。自ら死を選ぶことはしない。何より孫たちの成長を一日も長く見ていたい。車椅子中心の生活ながら、宣言してくれた。あと五年。母の思いをうけとめ、取材を続けようと思う。

(小林)

▼▲継続希望の方へ▲▼

▶退塾や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送りいたします。
▶在籍していた教室までご連絡ください。